

⑧ 考古学発祥の地・大森貝塚などを訪れる

◆催行日: 2017年9月6日(水曜日)

◆集合: JR線・大森駅ホーム(中ごろにある売店の裏)09時30分

(センター北8:31～横浜9:03(東海道本線)～川崎9:15(京浜東北)～大森駅9:23)

◆散策コース: 大森駅～考古学発祥の地～文士村のレリーフ～地獄谷～大森貝塚の碑～大森貝塚遺跡公園(トイレ)～鹿島神社～品川歴史館～来迎院供養塔群～大井の水神～光福寺～西光寺(トイレ)～作守稻荷社～三つ又地藏尊～商店街～大井町駅 解散

JR線大森駅の横浜よりホームに降り立ちますと「日本考古学発祥の地」の石碑が立っています。ホームに立って暫く見ていましたが、皆忙しいのか関心を示す人は余りいません。この地から日本の考古学が始まった大切な場所であるのに悲しい事です。西口改札口を右に出ますと池上通りが南北に走っており、クルマが引切り無しに通り過ぎてゆきます。



横断歩道を渡った正面が階段になっています。

階段を上がると右手に万年筆の形をしたカンバンがあり、「馬込文士村 散策のみち」と書かれています。その隣には馬込文士村のいわれを書いた看板があり、その先を見ると文化村の住人である石坂洋次郎、宇野千代、尾崎士郎、川端康成など43人のレリーフが飾られています。更にその先には麻雀、ダンスなどをする人たちのレリーフもあります。

レリーフの右隣にある階段を昇った所に「天祖神社」があります。階段は45段で幅も石段も狭いので転んだりする危険があり今回は止めます。レリーフ前のかつて八景坂と呼ばれた坂を上がりきったところです。

八景坂を降りた突き当りに人が並んでいます。「三代目むら上」という名のうなぎ屋です。江戸時代から続く鰻職人の伝統的な製法を残す老舗で安くてうまいと評判のお店です。食べた気分ですが、散策は始まったばかり休息しないで先を急ぎます。

再び横断歩道を渡り歩道を大井町方面に歩きます。数分するとケンタッキーフライドチキンの店があります。右にある階段を下るとそこは通称「地獄谷」(正式名称「山王小路飲食店街」)と言う100メートル足らずの路地。バル(バーと食堂が一緒になった店)や立ち飲み大衆居酒屋、バー、スナックなど40店舗の昭和の雰囲気漂う店がひしめき合うノスタルジック街です。地獄谷の路地を通り抜けると左手に階段があります。階段の途中でずっとスマホでゲームを戦っている人々に出会うでしょう。登りきると再び池上通りの歩道に出ますので右に進んでゆきます。



暫くしますと右手にNTTデータ大森山王ビルが見えてきます。ビルの前には、樹木を背景にした「我国最初之発見大森貝墟」の石碑が立っています。少し戻りますと左手の石に「史跡大森貝塚→」と書いた右に入る細い道がありますので進んでゆきます。階段を降り切るとトンネルがあり、壁の右側にモース博士と大森貝塚との係わりが書かれた看板があります。更に奥に行きますと京浜東北の線路沿いに大きな「大森貝墟」石碑があります。



来た道に戻り右に進みます。角に大森眼科医院とある信号を渡ります。角に蕎麦屋「一力」があります。お蕎麦屋さんらしくない、モダンな雰囲気のある店内で王道の蕎麦と合わせて、創作蕎麦の種類も豊富で大変歯ごたえのあるお蕎麦です。

大森貝塚遺跡公園は、「大森貝墟」の石碑のある歩道を直進するのですが、横断歩道を渡りましたのには訳があります。車の排気ガスがある池上通りから少しの間でも逃げようということです。



「一力」の前を進んでゆきますと突然、左手に鉄パイプで出来た大きなアーチが現れます。その先は何だろうと興味津々、入って行きますと何と両脇は木々が生い茂る緑道でした。緑道はかなり遠方まで続いています。今回は右手に見えた鹿島庚塚児童公園の中を通り抜けます。

池上通りに出て信号を渡ると「大森貝塚遺跡公園」に出会います。左右に薄い茶色の土壁があります。入口を入り鬱蒼たる木々の間を歩いていくと左手に「遺跡内の地図」が掲示されています。右手の「貝塚学習広場」を見て中央の道に戻り前に進み「縄文の広場」に出て大きくて長い「地層回廊」に驚き、左手の「モース博士」の胸像を見、一転して地層回廊の右の細い道を降り「貝塚展示ブース」を見ます。奥に進んで2つ目の「大森貝塚の碑」に遭遇。少し戻って右手に進み「貝塚跡」を見、大きな桜の木の下を更に進んで「波のオブジェ」を見て、そのまま道なりに進み、トイレの前を



通って出口に向かいます。再び池上通りを大井町駅に向かって進むと「大井鹿島神社」が右手に、神社の中は大きな木々が繁っていますが、二本のタブノキとアカガシは推定樹齢150年を超えと言いますので一見の価値があります。また、品川用水を記念する「恵澤潤沢浴碑（けいたくじゅんこうのひ）」があります。

池上通りに出て信号を渡ったところに「品川歴史館」があります。品川宿の町並みの再現など展示されています。因みに観覧料は、一般が100円、70歳以上は無料です。

先ほど渡った信号を左折し、坂を下ってゆくと途中の左側に「来迎院石造念仏供養塔」があります。更に下り、東海道本線のガードを潜った先の信号の左手角に「九頭竜権り水神社(大井の水神)」があります。そのまま中に入り、少し前方にある正式な入口から入場。「大井の水神」の由来を書いた立札を読み、その後ろに金網で覆われた「地下水の池」を覗き、二宮金次郎像の前を通過して奥にある「水神様」にお参りします。



「来迎院石造念仏供養塔」まで戻り、右に曲がり、道なりに進むと「光福寺」があります。本堂手前に推定樹齢800年の品川区区内で最も古いといわれていますイチョウ

ウがあります。本堂の裏のタブの木の下には大井の名前のもとになりました井戸があります。

「光福寺」前を進み、少し広い道を渡り、更に進むと「西光寺」に出会います。

「西光寺」は明治時代大火に合い本堂と江戸時代名所とうたわれまし桜を焼失しましたが、1本だけ生き残り「児桜(ちごさくら)」と名付けられています。

西光寺を出て左に行きます。道なりに進んで行き、二又の右を進みます。大井中央病院前を更に行くと三又道路の角に「作守稻荷社」があります。

お参りした後、三又道路の真ん中を進みます。暫く行く



池上通りに出ます。右に曲がり歩道橋を渡ります。

左手にある三又道路の尖った先に「三つ又地蔵」があります。

その右の商店会を見学しながら歩きます。京浜東北線の線路に突き当たりましたら左に曲がり道なりに進みます。JR線大井町の駅が右手に見えますが、左手にあります「アワーズイン阪急ツイン館」の前で解散します。理由は、大井町線を諒する人もいる為です。



●熱中症対策

9月6日は、まだ残暑の暑さがあると思います。そこで、熱中症対策を記しておきます。

- その1. 「水分」をこまめにとりましょう！ スポーツドリンクなどの塩分や糖分を含む飲料は水分の吸収がスムーズにでき、汗で失われた塩分の補給にもつながります。
- その2. 「塩分を」ほどよくとりましょう！ 大量の汗をかくときは、特に塩分補給をしましょう。
- その3. 「日差し」をよけましょう！ 帽子を被ったり、日傘をさすことで直射日光をよけましょう。
- その4. 「冷却グッズを」身につけよう！ 冷却シートやスカーフなどの冷却グッズを利用しましょう。
- その5. 「休憩を」こまめにとりましょう！ こまめな休憩をとり、無理をしないようにしましょう。

三又地蔵からは青線の商店街を通ります

